

佳作

はいどうなん

大石 直樹

新北風ミノーニシが吹いたら  
ひないむら比川村が思い出される

比川村の四家族の  
行く末が案じられる

浜川屋が仲間を誘ったのは  
なんの訳があつて

浜川屋が言うには  
収められない税のために

兼盛屋が船を用意したのは  
なんの訳があつて

兼盛屋が言うには  
責め苦から逃れるために

兼久屋かねくやが新北風を待ったのは  
なんの訳があつて

兼久屋が言うには  
風に乗れば南はいどうなん与那国へ行くからと

後間屋しいまやが島を抜けたのは  
なんの訳があつて

後間屋が言うには  
この島よりはましだからと

船頭は誰か

サシバがつとめた

夜空を南下する

サシバがつとめた

なんの訳でサシバか

ドゥナン トゥ  
与那国人には恩があると

寒夜に松明たいまつともしてくれて

道に迷わず済んだからと

南はいどうなん与那国に着いたか

楽土に着いたか

サシバは鳴いているだけ

便りは届けたとだけ

届けた便りはどうなった

読まれた便りは返されたか

サシバは鳴いているだけ

便りは届けたとだけ

サシバがキューキュー鳴く夜は

思い出されて目がうるむ

新北風がボーボー吹く夜は

案じられて涙が止まらない

南与那国―与那国島の南にある幻想の島、楽土。

琉球の時代、与那国島比川村の四家族が、  
王府の上納船を盗み島抜けした。